


なかやま しんぺい
 中山 晋平 (1887-1952)

童謡、新民謡、流行歌など、1700曲以上もの曲を残した作曲家。数々の名曲は今なお人々に愛され、現在も歌い継がれている。

■代表曲

「ゴンドラの唄」「シャボン玉」「証城寺の狸囃子」「東京音頭」

■こんな人物

明治38(1905)年、音楽を志して19歳で長野県から上京。島村抱月の書生となる。一方で東京音楽学校予科に入学し、本科ピアノ科を卒業。大正3年(1914)に「復活」の劇中歌「カチューシャの歌」で認められる。その後、野口雨情や西條八十、北原白秋らと数々の名曲を世に送り出す。日本の伝統的な音階に立脚した親しみやすいメロディーは「晋平節」として幅広い世代に親しまれ、現在も歌い継がれている。

昭和3年(1928)日本ビクター蓄音機会社と専属契約を結び、多くのヒット曲を生んだ。昭和14年(1939)には日本ビクターの相談役、大日本音楽著作権協会の監事、戦後は日本音楽著作権協会会長、日本民謡協会理事にも就任した。

■生没年

明治20年(1887)長野県下高井郡日野村新野(現・中野市)に生まれる。没年は昭和27年(1952)。享年65歳。葬儀は、日本ビクターの社葬として、築地本願寺で執り行われた。

 参考文献

- ・『中山晋平伝：近代日本流行歌の父』菊池清麿著 郷土出版社 2007 [762.1/238]
- ・中山晋平記念館 HP

<https://www.city.nakano.nagano.jp/shinpei/index.htm>